

英国における農業継承と新規参入 (その3)

英国における農業の人材確保

英国における農業継承と新規参入の現状を前2回にわたりご紹介してきました。英国では農業に参入する若者が減少している上に、農場継承を選択した後継者には経営権がなかなか委譲されず、また政策的支援も財政の厳しさから縮小傾向にあります。しかし、農業後継者や新規参入者を確保しなければ、英国農業の健全性を確立することはできません。

全国農業経営者連盟 (NFU) は、農業に参入する若者が減少する要因として、農業への参入機会が乏しい (親の農場を継ごうにもなかなか経営権を委譲されないし、新規参入は難しい)、農業の未来が暗い、の2点を挙げています。

人材育成：ビジネススキルの醸成

酪農経営者の死活問題は乳価の下落です。図に示したように、生産者乳価 (リットルあたり) は1995年の24.47ペンス (約47円) から2000年の16.91ペンス (約32円) へと5年間で約31%下落し、経営を圧迫しています。大手スーパーマーケットの台頭やポンドユーロの為替相場の動向などを考えると、今後乳価はさらに下落するという悲観的な予想が多く見られます。

この状況に対するNFUの戦略は、ビジネススキルに富む若い農業経営者を多く生み出すことです。農業経営者のビジネススキルを高める方法としては、伝統的には農業カレ

ジによる教育と農場の従業員としての実践的な経験の2つがありました。しかしこれらには、以下のような情勢の変化があります。

州立農業カレッジは1993年に独立法人化されてから生き残りのために脱農業色を強めています。例えば、Devon州にあるBictonカレッジは、かつてはBicton農業カレッジという名称でしたが、現在は名称から「農業」が外され、農業以外にも多様なコースが用意されています。大学やカレッジが農業経営者のビジネススキルを高めるための教育を今後も提供できるかは不透明です。

農業雇用労働市場も大きく変化しています。ビジネススキルを高めるためには、臨時ではなく規則的な勤務、それもフルタイムが望ましいですが、フルタイムの農業雇用労働者数は英国全体で1990年の12万5,000人から、2000年の8万4,000人へと10年間で約33%減少しています。被雇用経験を通じてビジネススキルを醸成する機会は確実に減少しているといえます。

地域農業者による助言機能

ビジネススキルを醸成する伝統的な手法が行き詰まりを見せる中、NFUは地域農業者による助言の有効性を指摘しています。農業は地域ごとの特色があり、営農面だけでなく精神的な支援も不可欠であるため、これらの役割を総合的に担えるのは、地域のベテラン農業者であるという議論です。英国の農業経営者は独立・孤高を好むと言われてきましたが、その行動にも変化が生じつつあるようです。

我が国でも、新規参入者の経営者能力養成のために、研修牧場の整備や関係機関の濃密指導などが謳われていますが、より現代的な意味での「親方」「師匠」の役割を再評価する必要があります。

英国プリマス大学客員研究員

日本学術振興会特別研究員 内山智裕

